



2019年

本屋大賞 第2位

「人生にエールを贈る感涙の傑作!」

今をひたむきに生きる青年の姿は、
大切なことを教えてくれる——。

おかげさまで
**11万部
突破**

読者から、届いた本物の感動の言葉

編集部に届いた
読者の「100字書評」は
世代を超えて熱い。

読後、心臓のドキドキが止まりませんでした。
この本と出会うために、私は本を読み続けてきましたが、
そして読み続けて良かったと思いました。
本の力を伝えてくれた、大切な一冊となりました。
(東京都 Sさん 24歳)

悩んでいるとき、苦しいとき、見えなくなっていた
大切な人に気づかせてくれた本です。
悩みながら決断する主人公に勇気と希望をもらい、
リアルな「ひと」の温かさが胸にしみて元気がでました。
(鹿児島県 Rさん 16歳)

この本は僕の人生で大切で、背中を押してくれ、
時には寄り添ってくれる一冊になりました。
また辛くなったら読み返したいと思います。
(広島県 Sさん 41歳)

身内の縁には恵まれないが、
聖輔をとりまく人たちは温かい。清貧で強い。
古き良き昭和のような香りがコロッケとともに漂ってくる。
(兵庫県 Iさん 47歳)

共感と絶賛の声、声、声……。



祥伝社

この小説のように、優しさのキャッチボールができる世の中であってほしいです。
(埼玉県 Tさん 63歳)

“人生、急がなくていいんだね。一つ一つでいい”
というメッセージが心にしました。
(福井県 Kさん 59歳)

何度も何度も感動して心の底から震えてしまいました。
ひとりでも多くの人に読んでほしい。
この優しさをずっと伝えていきたいなと思います。
(大阪府 Sさん 65歳)

小川がゆったり流れるように自分のがゆったりとしてくる心地よさを感じました。
最後の場面は自然と涙がこぼれ落ちました。
(宮崎県 Oさん 78歳)

私は一人親で大学生の娘が上京したので
この本と境遇が重なった。
久しぶりの良書、子に遺書代わりに
渡したいほど。
(福島県 Fさん 52歳)